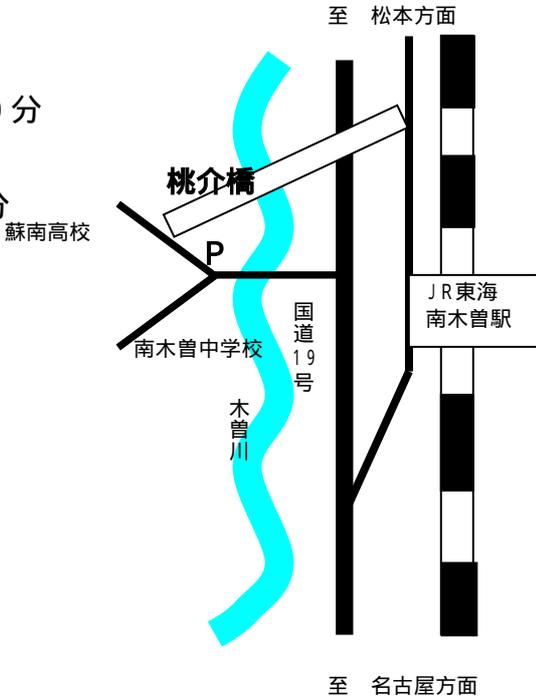


観光社会資本の事例

テーマ	今でも文化財が通学路
<p>【施設の状況写真】</p>  <p>全景。全長 247m、幅員 2.7m。国の重要文化財。木曾川の川幅の一番広い部分に架けられており、中央タワーには中洲に降りる階段があるのも特徴の一つ (右岸より写す)</p>  <p>国道 19 号 の上にも架かっており、走行中もよく目を引く (下流より写す)</p>	
<p>【施設の利用写真】</p>  <p>今でも町道として、地元小中学生や高校生の通学路となっており、ハイクンギングコースにも利用されている。</p>	
<p>【観光資源としての利用状況】</p> <p>JR中央本線南木曾駅から徒歩5分、国道19号の上空に架かっているため交通アクセスがよく、橋の周囲は橋ゆかりの「福沢桃介記念館」や公園整備が進んで駐車場やトイレなども設置されています。又、中山道や川西古道などのウォーキングコースとも隣接しているため年々観光客が多くなっており、町の新たな観光スポットとして注目されています。</p> <p>毎年4月中～下旬には、桃介橋のすぐ近くにあるミツバツツジ群生地で「なぎそミツバツツジ祭り」(ナギソミツバツツジという学名のツツジも自生している)が開催され、観光客や花見客など大勢の人で賑わいます。</p>	

テーマ	今でも文化財が通学路
<p>【社会資本の基礎データ】</p> <p>名称 「桃介橋」(ももすけばし)</p> <p>所在地 長野県木曾郡南木曾町読書(なぎそまちよみかき) (木曾川上)</p> <p>事業名 ふるさとづくり特別対策事業(復元)</p> <p>事業主体 南木曾町</p> <p>事業期間 平成4年11月～5年9月</p>	
<p>【社会資本の役割・効果】</p> <p>桃介橋は別名「桃の橋」とも呼ばれ、木曾川の水力発電開発に力を注いだ「電力王」福沢桃介によって、大正11年に橋の下流にある読書発電所(よみかきはつでんしょ)建設の資材運搬路として架設されました。昭和25年からは村道(現在町道)として利用され、兩岸集落の生活道や中学高校の通学路として重要な役割を果たしてきました。しかし、老朽化と共に本格的な修理が出来なかったため、昭和53年以降は通行禁止の措置が取られていましたが、保存活用の声があがり、平成5年に周辺の天白公園整備と併せて復元工事が実施されました。翌年には読書発電所、柿其水路橋とともに国の重要文化財(近代化遺産)に指定されたほか、土木学会「田中賞」も受賞しています。現在は、地域の通学路、生活路として利用されているうえ地域のシンボルともなっています。</p>	
<p>【位置図】</p> <p>交通</p> <p>鉄道 / JR中央線「南木曾駅」下車 徒歩7分</p> <p>車 / 中央自動車道</p> <p>「中津川IC」から国道19号を木曾方面へ北上約30分</p> <p>「飯田IC」から国道256号を木曾方面へ約50分</p> <p>「塩尻IC」から国道19号を木曾方面へ南下約90分</p>  <p>至 松本方面</p> <p>至 名古屋方面</p>	
<p>【関連ホームページ】</p> <p>南木曾町公式ホームページ http://www.nagiso-town.ne.jp/</p>	